

学 部	人間科学部
学 科	
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>人間とその社会及び環境を理解するために次のような学習をする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報や資料を収集し、それらに適切な分析・解釈・評価をほどこして、レポート・論文・作品などにまとめ、その成果についての効果的なプレゼンテーションと建設的なディスカッションが行える、基本的な知的スキルの習得。</li> <li>2. 基礎から応用までバランスよく配置され、系統的に展開される学習プログラムに沿って、体系的な学術講義と実験・実習・フィールドワークなどの体験学習との有機的な組み合わせによる、専門的な知識と研究法の習得。</li> <li>3. 専門的な知識や考え方を、QOL（生活の質）の向上、キャリア形成、ならびに現代社会の諸問題や諸課題の解決に生かすための、その立脚点およびバックグラウンドとなる幅広い教養の習得。</li> </ol>	

学 部	人間科学部
学 科	心理学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>実社会で出会うさまざまな心理的な問題に対応するためには、幅の広い心理学の専門的知識やアプローチが求められる。</p> <p>甲南女子大学人間科学部心理学科では、基礎から応用まで多領域の心理学を一通り学ぶことができるようカリキュラムが設定されている。幅広い領域をバランスよく学ぶことで、実社会のさまざまな問題に心理学的に対応できる人材教育を行う。</p> <p>当心理学科では以下の6つの段階に分けてカリキュラムをデザインしている。</p> <p><b>【第1段階：心理学的リテラシー】</b> 心理学について基礎的な知識を習得するとともに、実験心理学の手法や測定方法を学び、科学的な心理学の視点を獲得する。</p> <p><b>【第2段階：実践・試行】</b> 第1段階の授業内容を応用し、自己や身近な問題に対して心理学的に考えるトレーニングを行う。</p> <p><b>【第3段階：専門性】</b> 人間を理解するための様々な心理学的な視点を身につけるため個別の専門領域を学んでいく。</p> <p><b>【第4段階：アカデミック・ライティング】</b> 第3段階の専門的な視点を実用化するため、心理学的な現象を測定し分析する高度な研究手法やデータ解析について学び、科学的なレポートとしてまとめる能力を身につける。</p> <p><b>【第5段階：キャリアデザイン】</b> それまで学んできた専門知識とこれから自分が目指す将来像の結び付けを行い、心理学の専門性を活かしたキャリアデザインを考える。そして、3年次では自分のキャリアデザインに応じて専門ゼミを選択し、4年次での研究課題に向けて、論理的な読解力や文章作成能力を身につけるための方法論や専門理論を中心に学んでいく。</p> <p><b>【第6段階：能力の統合化と実践】</b> 3年次までに修得した専門科目の内容を、専門ゼミでの研究課題に取り組むことで、さまざまな現象を心理学的に解明することができる能力として統合させていく。さらに、就職や大学院進学に向けてより応用実践的な科目を学び、実社会の具体的な問題に対応できる実践能力の向上を目指す。</p>	

学 部	人間科学部
学 科	総合子ども
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>1. 保育・教育の場で必要とされる実践力、現場対応力を涵養する。保育実習や教育実習をより深い学びとするための事前・事後指導の質的な充実を図る。並行して基礎演習、教職実践基礎演習、保育表現技術、また幼保実践演習や教職実践演習を段階・発展的に履修する。下記にも示す地域・子どもに関わる実際の機会を通してこれら実践力を高める。</p> <p>2. 子どもに関わる諸問題について、実際の保育・教育現場との関連を示しながら提供し、視点や知識の自覚化に基づく自律した学びを進める（実際の現場で求められる力は何かという問いを持ち、追究する）。具体的には、総合子どもカーニバルなど、地域や子どもに関わる機会を学生自ら企画・演出し、保育・教育現場における必要な視点や知識を自覚し、随意的に発揮していけるよう、子ども学演習および卒業演習において理論化を目指す。</p> <p>3. また、子どもの育ちに職業人として関わることの重要性の自覚とその責任感を涵養する。教育原理、保育原理、社会的養護といった教育・福祉の基礎理論に当たる学びに加え、子どもを総合的に学ぶ子ども学を履修する。これらを通し、教える者であるために必要な生涯学び続ける姿勢を養う。</p>	

学 部	人間科学部
学 科	文化社会学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<p>文化社会学科では、身近な現代文化に関する興味や関心を起点として、さまざまな社会現象や社会問題が起こる背景を、フィールドワークや社会調査など社会学の技法を用いて分析する能力を身につけるために、次のようなカリキュラムを編成している。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 実社会で活躍する女性をゲストとして招き、現場から見た現代文化の特徴、仕事をとおして社会と関わるうえで必要な能力や態度、女性のキャリアとライフデザインなどに関する講演を聞き、講演の要点と自分の考えをレポートとしてまとめる科目を1年次に設置。 「総合科目・文化社会学Ⅰ・Ⅱ」</li> <li>2. 情報収集、調査、レポート作成、発表、ディスカッションなど、大学での学びに必要な基本的スキルを身につけ、幅広い視野で物事を多面的にとらえる社会的思考力の基礎を学ぶ科目(多くは少人数制)を1年次から2年次に設置。 「文化社会学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、「文化社会学情報演習」、「社会調査入門」、「社会調査の方法」、「フィールドワーク演習」、「マルチメディアの方法」</li> <li>3. さまざまな現代文化を通して人間の行動や社会のしくみを深く見つめる科目を1年次から3年次に設置。(22科目)</li> <li>4. 2年次までに学んだ多様な社会学の科目をふまえ、文化と社会の総合関係について総括する科目を3年次に設置。 「文化社会学概論」</li> <li>5. 自分が関心のあるテーマを決め、各自が掘り下げて調査・分析・発表する少人数制の科目(ゼミ)を3年次に設置。 「文化社会学演習Ⅰ・Ⅱ」</li> <li>6. 最も興味のある分野を選んで研究テーマを決め、本や資料を読む、インタビューで生の声を集める、雑誌や新聞の記事を分析するなど、実際に調査を行い、自分なりの答えを導き出す少人数制の科目(ゼミ)を4年次に設置。 「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」</li> </ol>	

学 部	人間科学部
学 科	生活環境学科
カリキュラムポリシー（教育課程編成・実施の方針）	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活環境に関わる諸問題を、学際的かつ実践的に学ぶ。</li> <li>2. 多岐にわたる学習内容を環境や健康に配慮したライフスタイルの創造という具体的な目標に向けて集約する。</li> <li>3. はじめに、全教員がオムニバスで担当する入門科目によって、学科の理念、目標、学習内容の概要の周知を図る。</li> <li>4. 基礎科目と専門的科目を体系的に編成するとともに、専門の異なる複数の教員で担当する学際的科目と資格取得を視野に入れた科目を設ける。</li> <li>5. 1年次では、基礎演習として、大学での基本的な学びの方法、2年次では、より専門的な知の技法・研究手法を学ぶとともに、生活環境学の基礎領域を幅広く学修することによって視野をひろげ、専門教育に備える。</li> <li>6. さらに、講義だけでなく、実験・実習、フィールドワーク、臨地研修等、体験型学習を併用することによって、知識の深化・体得を図るとともに、実践的技能を身につける。</li> <li>7. 専門科目及びゼミは、環境や健康に配慮したライフスタイルの創造に向けて、各分野の視点から、より深い専門的知識・技能の習得を図る。</li> <li>8. 4年次には、習得した知識・技能をもとに学生が主体的に選んだテーマによる卒業研究に取り組み、学びの集大成とする。</li> </ol>	